平成28年度　佐賀県立武雄青陵中学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
高い志と未来を切り拓く力をもち、地域や国際社会の発展に貢献できる、人間性豊かな人材を育成する。 ア　信義礼節を重んじ、情操豊かで、心身ともに健康な生徒を育成する イ　自分の考えに自信を持ち、他を思いやり生き生きと自己表現できる生徒を育成する ウ　国際的視野と高いコミュニケーション能力を持つ生徒を育成する	色々な経験を通してできることを増やし、達成感を持たせる。勉強する楽しみ、学ぶ喜びを教える。1、2学年ではしっかり寄り添い、3学年で背中を押し、自信をつけて武雄高校に送り出す。 ア　学力向上と授業改善 イ　生徒指導の充実 ウ　進路支援の充実 エ　保健・安全指導の徹底 オ　保護者・地域との連携 カ　組織力の向上

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①　学力向上と授業改善

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	●学力向上	・指導計画 ・評価計画	・わかる授業・学びのある授業を展開するための計画を策定する。	・指導と評価の一体化が図れる指導計画及び評価計画を策定する。	C	指導と評価の一体化に基づく指導計画及び評価計画の策定意義については職員への周知を図ることはできたが、記載事項を統一した書式での作成を次年度の課題として残した。	全ての教科で、記載事項を統一した書式を使って、各計画を策定するよう周知済み。
		・学習環境	・個に応じた指導ができる環境をつくる。	・TTや習熟度別指導を適宜採り入れるなど、学力差が広がらない工夫を講じる。	B	1年生は数学でTT指導、3年生は国数英で少人数指導を行い、各学年や教科の特性に応じた指導ができた。	今年度の指導方法を継続して行うが、教科担当者の打ち合わせや教材研究に時間をかけ、さらに効率的な指導を求める。
		・授業改善	・自ら考え取り組む、主体的な学習が身につく指導を行う。	・「めあて」を明示する。 ・授業を振り返る場面を設定する。 ・個別演習、グループワーク、『学び合い』、アクティブラーニングなどの多様な展開を活用する。 ・思考力・判断力・表現力を育む発問や課題を採り入れる。	B	講義形式の授業だけでなく、話し合いや学び合い、発表、意見交換の場を積極的に設けるなど、様々な工夫をしながら授業を進めることができた。	大学院研修の教員の研究を検証する一環として、異なる教科担当者とのTT指導（クロスTT）を試みるなど、さらなる授業の工夫・改善を進めていく。
		・授業外の指導改善	・自ら考え取り組む、主体的な学習が身につく指導を行う。	・能力に応じて学力向上が図れるような補習授業を実施する。	C	上位層に対する補習授業は充実させることができたが、下位層に対する手当てが組織だってできなかった。	青陵タイムの活用について、担当部署を決め、活用法を計画する。
		・家庭学習	・家庭学習が充実するよう指導を行う。	・授業と関連付けた課題を与える。 ・宿題の意味ややり方を具体的に指導し、次の学びにつながることを理解させる。	C	生徒に対し、家庭学習の重要性は説くことができているが、課題の与え方や内容にもう少し計画性が必要と思われる。	課題の在り方について、再度職員間で共通理解を図る必要がある。
		・学習評価	・適正な評価の実施に努める。	・評価計画を生徒及び保護者に配布し、学習評価について理解を深めてもらう。 ・評価結果について説明責任が果たせるよう、適宜評価方法や評価時期の検証を行う。	B	評価方法について校内で検証することができ、1学期末には、評価方法について保護者に周知することもできた。しかし、各教科の評価計画については、事前配布までは至らなかった。	年度当初に指導計画及び評価計画を作成する予定であり、事前周知を行う計画である。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	・ICT機器の活用	・生徒の授業理解、学力向上に資するICT機器の活用に努める。	・ICT機器の利点を認識したうえで、効果的な場面で積極的に活用する。 ・市販のデジタル教材に加え、汎用性・応用性のある教材を作成し、授業で積極的に活用する。	B	他校に比べてもICT機器の活用頻度は高い。生徒も調べ学習などで、放課後も含めよく利用している。 学習プリントなどの作成は行っているが、汎用性のある独自教材の開発にまでは至っていない。	引き続き学習用PCや電子黒板は積極的に活用していく。教材については、教科指導の中で必要に応じて作成していく。

② 生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育	・他者を尊重し、互いの個性を認め合うことができる。	・ふれあい道徳を充実させる。 ・がん教育により、がんを通して命と向き合う。	B	「がんの教育」推進校として、ふれあい道徳と関連付けて授業等を行うことができた。保健と道徳の授業の棲み分けなど、いくつかの課題は残った。	道徳教育担当と体育科で連携しながら、引き続き「がんの教育」には取り組んでいく。 道徳については、道徳教育担当の業務を明確にし、心の教育をさらに充実させていく。
		・礼儀作法とマナー	・率先して挨拶ができ、言葉遣いにも注意を払うことができる。	・登校指導をはじめ日常的に挨拶指導や言葉遣いの指導行う。	A	挨拶や言葉遣いなどの礼儀面については、各方面から高い評価をいただいた。	引き続き、日常生活の中で指導を行っていく。特に、新入生に対しては、武雄青陵中生として恥ずかしくないよう、年度当初のオリエンテーションなどを活用し、集中した指導を行う。
	●いじめの問題への対応	・いじめの撲滅	・他者の痛みがわかり、正しい判断や行動ができる。 ・いじめゼロの学校にする。	・いじめを許さない学校づくりを目指した生徒会活動や学級活動に取り組む。 ・面談や生活アンケートを活用し、生徒の実態把握に努めるとともに、いじめの芽を早期に発見する。 ・いじめ・体罰等対策委員会において、事案発生時の対応について共通理解を図り、また教職員全体でも共通理解を図る。	B	いじめの認知はなかったが、時折、他者への配慮に欠ける言動が見られ、指導を行うことがあった。 指導を行う中で、効果が薄いと感じたり対応に苦慮したりする場面もあった。	まず、未然防止に向け、道徳教育の中で、心の教育を充実させる。 生活アンケートの回数を増やすなど、生徒の状況を具に観察するとともにいじめの芽を早期に発見できるよう取り組む。 事案が発生した場合は、組織として迅速かつ適切な対応ができるよう、職員の研修を充実させる。

③ 進路支援の充実

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	・学習支援	・学習習慣の基礎が身につく。	・学習会や宿泊研修の機会を活用し、教科ごとに学習の仕方などを説明する。	C	高校入試のような進路目標が身近にないためか学習の目的が見えていない。そのため学習習慣も身に付いていない。	校内に新たに進路資料室を設け、進路に関する情報を提供するための場を作る予定である。
	◯キャリア教育	・体験活動	・職業観、勤労観が身につく、又は身に付けようと努力する。	・外部講師を活用した職業講話、職場体験、職場見学、また職業調べ等を実施し、仕事や働く意味について考える契機とする。	A	1次産業、2次産業と順序立てて体験活動に取り組ませることができた。職業講話や職場体験も充実したものにできた。	「探究（総合的な学習の時間）」の全体計画に沿って、引き続きキャリア教育の充実を図る。
		・探究活動	・将来にわたる自己の在り方・生き方について考える。	・調べ学習やディスカッションを採り入れるなど、「探究」の時間を充実させる。	B	各学年の「探究」の活動により、自分の将来を身近に考える契機とすることができたが、「探究」の時間の持ち方に一貫性がなかった。	本校の教育活動の中心軸となるのが「探究」であるため、その全体計画策定に着手している。指導の一貫性を担保するため、その完成を急ぎたい。

④ 保健・安全指導の徹底

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	・生活習慣の確立	・3点（起床、学習開始、就寝）固定を定着させる。 ・朝食摂取率を95%以上にする。	・SDノート等を用いて生徒の生活実態を把握し、教育相談などを利用して適切に指導・助言を行う。 ・朝食の摂取状況について調査し、食育だよりや保健だより等で朝食の大切さについて呼びかけるとともに、保護者への協力を依頼する。	B	多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いている。しかし、家庭学習時間が十分に確保されていないなど、学習のリズムが確立されていないところがある。 朝食の摂取率は、毎日が94%となっている。やや目標に届かなかったが、食べない日が週に1日以下では97%となり、ほとんどの生徒は、朝食摂取が習慣づいている。	学力向上と絡めて生活習慣確立の啓発を行う必要がある。平日の学習時間の目標を2時間以上、休日を4時間以上と設定し、日常的に指導を行っていく。 朝食摂取についても、食育だよりなどを活用し、引き続き啓発活動を行っていく。
		・自己管理	・健康に対する意識を高め、健康の保持・増進に努める。	・健康診断の意義・必要性について事前指導を行い、検診率の向上を図る。 ・健康増進を図るため、健康診断の結果をもとに個人指導に努める。 ・「保健だより」発行などをとおして、身近な保健情報を提供する。	B	健康診断の意義については十分に周知できている。異常が見られた場合は、再検査等を受診しており、生徒・保護者ともに健康への意識は高い。 授業や部活動の際のけがが多く、その意味では自己管理に若干の問題がある。	健康診断については、引き続き「保健だより」等を通して啓発活動を行っていく。 日常のけがや病気についても、啓発活動を徹底していく。

教育活動		・ストレスマネジメント	・心身の健康バランスを考えた生活ができる。	・生活アンケートや教育相談を通じ生徒の実態把握に努めるとともに、適切な声掛けを行う。 ・生活アンケートを月に1回実施し、いじめの未然防止に努める。	C	スクールカウンセラーによるストレスマネジメント講座を開き、指導を行った。 いじめの認知はなかったものの、いじめアンケートは年3回しか実施しなかった。いじめの未然防止を強化し、生徒の心をこまめに拾うためには、生活アンケートの回数を増やすべきであった。	引き続きスクールカウンセラーをはじめとする心理学の専門家を招聘し、ストレスマネジメントやアンガーマネジメント、アサーショントレーニングなどの講座を開いていく。 生活アンケートは毎月実施を目標に取り組む。
	○美化活動	・清掃活動及びボランティア活動	・環境・美化意識の向上を図る。	・環境及び美化意識の向上を図るため、日々の清掃活動及び校外清掃活動等を充実させる。	B	日々の校内の清掃活動、生徒会行事の校外清掃活動など、意欲的に取り組む姿が見られた。	整美委員会の広報誌（委員会だより）を有効に活用し、さらに生徒の環境・美化意識の高揚に努める。
	○安全教育	・安全教育	・安全・安心な生活に対する意識を高める。	・不慮の災害等に備え、防火訓練、避難訓練等を実施する。	A	警察、消防などの協力を仰ぎ、計画的に実施することができた。熊本地震を受け、地震への対応についても学ぶ機会を持つことができた。	次年度も関係部署を中心に計画的に訓練等を実施していく。

⑤ 保護者・地域との連携

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○保護者・地域との連携	・情報発信	・学校の教育活動に対する理解が深まる。	・HP、学校だより、学級新聞など、様々なメディアを通じて教育活動に関する情報発信を行う。	B	適宜情報発信することができたが、HPについては、学校行事ごとに更新を行っていった。	新聞や便りなどと同様に、HPについても定期的な更新を行い、常に力最新の状態を保つように努める。
		・開かれた学校づくり	・地域と学校の関わりを具体化し、開かれた学校づくりを目指す。	・地域や地元自治体のイベントに参加したり活用したりする。 ・地域への奉仕活動を実施する。	B	地域や地元イベントには積極的に参加することができた。多くの生徒が地域のお祭りなどの行事に参加した（派遣扱い）。 また、地域の行事などに、グランドや体育館など本校の施設を利用してもらうことも多かった。	引き続き地域との関わりを密に行い、さらに地域に愛される学校づくりを目指す。

⑥ 組織力の向上

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○組織力	・校務分掌	・校務分掌の機能を合理化する。	・次年度の学校運営を見据え校務分掌の見直しを行い、合理的な運営ができる組織を再構築する。 ・業務の偏りをなくす。	B	今年度の各校務分掌の業務の状況を踏まえ、次年度に向け校務分掌を整理した。武雄高校の校務分掌との対応についても勘案し整理した。	新年度に向け、校務分掌を整理した。新しい分掌組織で年度当初から動いていく。
		・組織間の連携	・発生した問題には、チームで迅速かつ的確に対応する。	・学年、校務分掌、管理職の間の連絡を密に行い、情報共有を徹底する。	B	発生した問題に対しては、校務分掌、学年（担任・副担任）、部顧問、管理職が必要に応じてチームを組み対応出来た。	発生した問題の種類によって、どの分掌が主導するのかより明確にした対応を行う。

⑦ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 （左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上 ○心の教育	・読書活動の推進	・豊かな心と高い志を育成するため、良質な本に数多く触れる。 ・読書習慣が身につく。	・多数の教員による選書を通して、良質な本を数多く購入するとともに、学校だより等で生徒達に読ませたい本を紹介する。 ・2ヶ月に1回図書館だよりを発行し、図書館にある本を紹介して、生徒が図書館に足を運ぶようにする。	B	図書館を利用する生徒が多く、昼休みなどは満室に近い。読書習慣が身に付いている生徒は少なくはないが、更に読書に親しむ生徒を増やしたい。	選書に多くの教職員が関わり、読ませたい本の種類を充実させたい。また、職員によるお勧めの本なども、頻繁に紹介するような機会を設けたい。

教育活動	◯グローバル化	・国際交流	・積極的に国際交流に取り組み、異文化理解、自国文化理解に努める。 ・英語によるコミュニケーション能力が向上する。（英検2級・準2級を合わせて50名以上、3級を100名以上にする）	・「探究」の時間を活用し、国際交流の機会を設ける。 ・姉妹校（韓国：華陽中学校）との交流活動を充実させる。 ・様々な国際交流事業を紹介し、積極的な参加を促す。	A	姉妹校とは相互に訪問する機会を設けるなど、充実した交流活動を展開することができた。 国際交流事業への参加希望が多く、選考試験をならないほど盛況であった。世界に目が向いている生徒が多く、英検の受検・合格状況にもそれが反映されている。今年度は2級合格者が9名、準2級合格者が53名で、準2級以上については目標を達成した。3級合格者は80名にとどまり、目標にやや届かなかったが、生徒の英語を重要視する姿勢は大幅に向上した。	国際交流は本校の教育活動の特色の一つでもあることから、一層の充実を図りたい。 英検については、準2級以上を70名、3級以上は引き続き100名以上を目標とする。

4　本年度のまとめ・次年度の取組

設立10年目を迎えた今年度であったが、様々な面で課題を見出すことができた。
中高一貫教育校としての中高の連係については、まずグランドデザインの再構築が必要と思われた。グランドデザインは、中高のあらゆる教育活動の根幹となるものだけに、しっかりと時間をかけて完成させていかなければならない。今年度は、中高の関係部署で密に話し合いを持つことができ、来年度の完成に向けての土台作りができた。
生徒の学力については、どの学年も、また何れの教科も右肩上がりの成果をだすことができた。しかし、高校入試がないことで学習目標を見失いがちな状況は変わらず、家庭学習の定着などの面で課題を残した。授業の工夫・改善と合わせて、宿題の出し方について再度共通理解を図るため、教科や学年との連携を密にする必要がある。
生徒の中に、意識・無意識を問わず、他者を傷つけるような言動がしばしば見られた。1年生に対しては、急きょアンガーマネジメント・アサーショントレーニングの講座を入れるなど、心の教育の充実を図ってきたが、次年度も引き続き、道徳教育を中心とした心の教育は重要な課題となる。他者の痛みがわかり、他者の存在や考えを尊重できる人材の育成を目指していかなければならない。
平成29年4月の施行に向け、学校管理規程を改正を行った。学校の基本ルールの改正に沿って、教務・生徒指導などの分掌ごとのルール作り（改正を含む）が平成29年度の課題となる。
本校では、様々な教育活動が学年主導で行われているが、学校としての一貫した教育、中高一貫教育校としての一貫した教育を確固たるものとするため、校務分掌主導の学校運営に切り替える必要がある。校務分掌の機能の充実と機能性をもたせるための組織の整理は今年度中に済ませることができた。次年度は、実際にそれらの組織を機能的に動かし、合理的な学校運営につなげることが求められる。
学校行事が祭り的な単発のイベントとならないよう、教育課程と関連付けた位置づけ（全体計画）が必要である。特に「総合的な学習の時間（探究）」や「特別活動（学級活動、学校行事、生徒会活動）」の位置づけが曖昧であったこともあり、行事の準備にもいろいろな時間を活用していた経緯がある。「探究」については全体計画の策定を始めたこともあり、その完成を急ぎ、教育活動の軸をしっかり固めていきたい。また、特別活動についても、担当部署を中心に全体計画を策定し、計画的な時間の運用とともに、趣旨に沿った活動ができるよう取り組んでいかなければならない。